
山陽化工株式会社、B-EN-Gの「mcframe 7」を導入 22年間継続利用してきた業務システムをFit to Standardの方針で刷新

ビジネスエンジニアリング株式会社(東京都千代田区、代表取締役社長:羽田 雅一、以下「B-EN-G」)は、樹脂(プラスチック)原料の着色および加工を主事業とする山陽化工株式会社(東京都中央区、代表取締役社長:齋木 浩史、以下「山陽化工」)が、B-EN-Gの生産管理システム「mcframe 7」を導入し、Fit to Standardの方針のもと、業務の標準化と効率化を実現したことを発表いたします。

また、以下サイトにて導入事例記事を本日公開しました。

■URL

<https://www.mcframe.com/case/sanyokako>

山陽化工では生産管理システムとして2001年にmcframe CSを導入、ユーザーの満足度は高く、永年保守を受けられることから20年以上運用を続けてきましたが、2022年に最新バージョンである「mcframe 7」を導入しました。本プロジェクトは、mcframe CSの多くのアドオン開発プログラムを整理してmcframe 7にリプレースした事例です。

mcframe CSを長期に渡り運用する中で、当初は無かった原価計算プログラムを始め、その他管理帳票や便利機能、ユーザー要望や得意先要望、法令対応のたびにアドオンプログラムを内製で対応してきたため、その数は70を超えていました。これらの複雑化・肥大化した業務プロセスが逆に効率を下げってしまう状況が出始めていたため、業務内容を精査し、最新パッケージ機能をフル活用する「Fit to Standard」の方針を採用しました。mcframe 7はmcframeを利用するユーザーから挙げられた多くの製品要望を取り込んだ機能を備え、更にAWSやPostgreSQLなどにも対応しているため、これら最新技術のメリットを享受することも目的の一つでした。

長年、社内のユーザーニーズに答えて内製で対応してきただけに、その意識改革に多大な労力を費やすことにもなりましたが、mcframe CSをmcframe 7にリプレースすることにより、業務の標準化・効率化・シンプル化に成功しました。

■mcframe 7採用の理由

- 長年の利用によるmcframeへの信頼性
- 最新バージョンに実装された標準機能や業務ノウハウ、最新技術を取り込み、更なる業務の効率化を期待

■導入前の課題

- 業務ルールの陳腐化、個別最適化が進行
- 長年の追加開発でシステムが複雑化
- OS・データベースなどITインフラの老朽化

■導入効果

- Fit to Standardの徹底により、標準機能をフル活用し、業務の標準化・効率化・全体最適化を実現
 - 余分なアドオンを廃止することでシステムをスリム化
 - AWS(Amazon Web Services)へのクラウドシフトとPostgreSQLの採用により、システム運用の不可とコストを削減
 - 進化した標準機能のメリットを享受
- ①リアルタイムに将来の在庫推移を把握
 - ②受注画面から受注に紐づく進捗状況をリアルタイムにトレース
 - ③進化したUIにより、システム入力負荷やチェック作業が大幅に軽減
 - ④ダッシュボードで素早く異常を検知
 - ⑤原価計算の精緻化

■お客様のコメント

現状でもユーザー部門からの評価が高く、ある程度満足していましたが、自社の業務を見つめ直し、B-EN-Gが多くの製造業のユーザー企業と向き合うなかでmcframe 7に実装してきた標準機能や業務ノウハウ、最新技術を取り入れることで、業務の到達点のレベルを上げたいと考えました。

今回、実績あるパッケージをベースにFit to Standardの方針のもとシステム導入を進めた結果、自社の強みが明確化し、業務の標準化が進んだことで、システムとしてもカルチャーとしても『ものづくりのスタンダード』を確立することができたと考えています。

■mcframeについて

1996年のリリース以来、26年の歳月を重ねてきたmcframeは、一工場内のモノとカネを情報で「つなぐ」ことから始まり、サプライチェーン全体へと対象を広げていく中で、一貫して「つなぐ」をコンセプトとして進化してきました。この「つなぐ」には、生産活動をサポートする各システム間をつなぐ、事業活動の拠点間をつなぐ、過去のファクトを未来の改善や計画へとつなぐ、人の状態や知恵などをデジタル世界へとつなぐなど、事業環境やニーズに合わせて変化する様々な課題が含まれており、B-EN-Gはその課題解決に取り組んでいます。

mcframeの詳細は <https://www.mcframe.com/about> をご覧ください。

■ビジネスエンジニアリング株式会社について

ビジネスエンジニアリングは、製造業を中心としたお客様のデジタル変革をITで支援しています。IT企画からシステムの構築、導入、運用にわたるコンサルティングおよび支援サービス、ならびに自社開発のパッケージソフトウェア「mcframe」の販売、導入で豊富な実績を有しています。また、基幹業務システム(ERP)やサプライチェーン(SCM)、IoT等で蓄積されたデータを活用して、システムの高度化やカイゼン活動をお手伝いしています。中国(上海)、タイ(バンコク)、シンガポール、インドネシア(ジャカルタ)、アメリカ(シカゴ)の5ヶ所に海外子会社を有し、海外進出企業に対しても、日本と現地によりそいながら製品やサービスを提供し、お客様の経営課題を解決しています。

ビジネスエンジニアリング株式会社の詳細は <https://www.b-en-g.co.jp/> をご覧ください。

【当報道に関してのお問い合わせ窓口】

ビジネスエンジニアリング株式会社 経営統括本部 広報グループ
電話:03-3510-1619 / E-mail:kouhou@b-en-g.co.jp

【当サービスに関してのお問い合わせ窓口】

ビジネスエンジニアリング株式会社 プロダクト事業本部 営業本部

電話:03-3510-1616 / E-mail: mcframe@b-en-g.co.jp

*本ニュースリリースに記載されている社名、製品名などは、各社の登録商標または商標です。